

# プロ野球人気の現状と今後の展望

氏名 嶋村拓海

要旨本文（文字数は自由）

本研究では、プロ野球人気の現状を明らかにし、過去のデータや公表されている文献を参照しながら野球競技者人口の実際のデータやこれまでの歴史、チームによる観客動員数の推移など、様々な分野から考え、プロ野球の人気や今後の展望について考察した。第2章では、野球人気の現状として、日本野球競技者協会が行った野球競技者人口の推移の調査を基に、競技者人口の増減と人気の増減との因果関係について考察した。第3章では、日本において野球と同程度の長さの歴史を持つサッカーと比較し、野球とサッカーの違いや母体企業の形態から野球の人気について考察した。第4章では、観客動員数に大きな差がある、西武ライオンズと阪神タイガース、福岡ソフトバンクホークス3つのプロ野球球団に注目し、その原因について明らかにした。第5章では、プロ野球人気の現状について判断した。第6章では、さらなるプロ野球人気獲得に向けて行われている施策について具体的な例を紹介する。第7章では、6章までに示したデータや考察をもとに今後の野球人気の展望を考察した。今後の展望として、プロ野球においては試合を見るという本来のスポーツの楽しみ方にも色々と工夫がされている。野球観戦という一つの目的だけでなく、球場において様々な工夫がなされ野球が知らない人でも十分に楽しめる要素があり、言い方を変えれば多様化する現在の娯楽ニーズに対する様々な野球以外のコンテンツも球場に用意されている。本来野球に興味のなかった人でもこうした娯楽施設の利用により、すぐ横で展開されるプロ野球の魅力に気づく人も多い。そのため、かつて野球に興味を持ち野球を好きになった人のファン層だけでなく、新たな不特定多数の人が野球ファンになる可能性が十分考えられる。DeNA、広島、日ハムが行っているボールパーク化など野球以外で野球を知らない人でも楽しめる場所を作ることが重要であり、新しいプロ野球の在り方として今後も発展していこう。

フォントサイズ：タイトルのみ 18pt、その他 10.5～11pt

和文フォント：MS 明朝

欧文フォント：Times New Roman